

こどもテイクアウト

敦賀市立栗野中学校 2年 手島 梨菜

今年は、新型コロナウイルス感染拡大により、国からは非常事態宣言が発令されました。多くの方が、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、不自由な生活をおくっています。会社では、時差出勤や在宅勤務で、朝や夕方の密を避ける対策がとられました。学校では二ヶ月以上の休校、お店では営業時間の短縮、休業などの対策がとられました。

そんな中福井県敦賀市では「こどもテイクアウト事業」が市内の飲食店三十店以上の協力のもと、開催されました。「こどもテイクアウト事業」とは、市内の三歳から十八歳の子どもの対象に、五〇〇円のお弁当を二〇〇円で販売する事業です。これは、新型コロナウイルス感染拡大により、お客さんが少なくなったお店を助けるという側面もあります。ですが、これは仕事をしている親の負担を減らし、美味しいお弁当をおなかいっぱい食べてほしい、という願いのもとでできた制度です。私たち家族も、この制度を利用してお弁当を買いにいきました。そのとき私は、五〇〇円のお弁当が三〇〇円も安い二〇〇円になるのはなぜかと思い、母に聞きました。

「なんで、お弁当を三〇〇円も安い二〇〇円にできるの。」

「税金をつかっているからだよ。」

母がそう言ったとき、私は驚きました。こんなことにまで、税金がつかわれているなんて全く思わなかったからです。私は、今、福井県の市町村で税金がどのようにつかわれているか、気になったので、調べてみることにしました。

鯖江市では、中学生以下の給食費が学校再開時から年度末まで無料になりました。美浜町では、マスクを全戸に最低二箱無料で配布しました。また、全町民に一万円分の商品券を発行しました。勝山市では、中学生以下の子ども一人に六万円を給付しました。大野市では、「子どもに笑顔を届けるテイクアウトチケット」を十枚配布しました。調べてみると、他にも福井県のいろんなところで税金は、人々の役に立っていました。それには、敦賀市の「こどもテイクアウト」のように、税金にさまざまな願いがこめられていました。

私は、まだ税金をはらっていません。でも、大人になったら税金をはらいます。税金は、必ず人々の役に立つようなつかいかたがされています。大人になって、税金をはらうときには、この税金がどのようにつかわれているのかを考えたいです。